

2011年10月19日作成

～ 動き出した 地域ごとの特色ある復興計画づくり ～

現在大槌町では、碓川町長のもと平成23年12月を策定目標とした「大槌町震災復興計画」の作成に取り組んでおります。町では、町内10地域に「地域復興協議会」を立ち上げ、この協議会を通じて、現状や課題を踏まえた未来像を議論して頂き、復興計画に反映させていくこととしております。

2011年10月16日(日)には、8地域(町方地域、桜木町・花輪田地域、小枕・伸松地域、沢山・大ヶ口地域、安渡地域、赤浜地域、吉里吉里地域、浪板地域)の第1回目の復興協議会が開催されました。

第1回目では「認識を共有する」をテーマに、復興基本方針や津波に対するまちづくりの考え方など、これからの大槌町のまちづくりの前提となる内容を共有し、地域ごとの将来像について意見を出し合うことを目的として開催しました。

参加された町民のみなさんからは、将来のまちづくりを考える上で重要な各地域ごとの課題が出されました。防潮堤や住宅地のあり方や避難道整備や避難方法については勿論のこと、産業振興・雇用確保、現在での仮設生活での生活上の要望など、多くの意見・要望が出されました。

大槌町地域復興協議会 第1回地域別協議会の内容

●概要

【第1回町方、桜木町・花輪田、小枕・伸松、沢山・大ヶ口地域復興協議会】

○日時：平成23年10月16日(日) 13:30～15:30 ○場所：城山体育館 ○参加者：221名

【第1回安渡地域復興協議会】

○日時：平成23年10月16日(日) 9:30～11:30 ○場所：安渡小学校体育館 ○参加者：93名

【第1回赤浜地域復興協議会】

○日時：平成23年10月16日(日) 13:30～15:30 ○場所：赤浜小学校体育館 ○参加者：38名

【第1回吉里吉里地域復興協議会】

○日時：平成23年10月16日(日) 13:30～15:30 ○場所：吉里吉里中学校体育館 ○参加者：111名

【第1回浪板地域復興協議会】

○日時：平成23年10月16日(日) 9:30～11:30 ○場所：浪板交流促進センター ○参加者：35名



町方、桜木町・花輪田、小枕・伸松、沢山・大ヶ口地域復興協議会の様子



安渡地域協議会で地形の模型を見て議論する町民の方々



赤浜地域の住民案の模型を囲んで議論する町民の方々

☆次回開催案内

協議会名	日時	場所
第2回町方、桜木町・花輪田、小枕・伸松、沢山・大ヶ口地域復興協議会	10月29日(土) 13:30～	城山体育館
第2回安渡地域復興協議会	10月29日(土) 9:30～	安渡小体育館
第2回赤浜地域復興協議会	10月30日(日) 9:30～	赤浜小体育館
第2回吉里吉里地域復興協議会	10月30日(日) 9:30～	吉里吉里中体育館
第2回浪板地域復興協議会	10月30日(日) 13:30～	浪板交流促進センター

☆地域の区分について

各地域復興協議会の区分(主たる対象者)は以下の通りです。

- 町方地域・・・震災以前に【新町、大町、本町、末広町、須賀町、栄町、上町】にお住まいだった方
- 桜木町・花輪田地域・・・震災以前に【桜木町、花輪田、白沢】にお住まいだった方
- 小枕・伸松地域・・・震災以前に【小枕・伸松】にお住まいだった方
- 沢山・大ヶ口地域・・・震災以前に【沢山、大ヶ口、源水、迫又、柱内、前段、和野】にお住まいだった方
- 安渡地域・・・震災以前に【安渡、港町、新港町】にお住まいだった方
- 赤浜地域・・・震災以前に【赤浜】にお住まいだった方
- 吉里吉里地域・・・震災以前に【吉里吉里】にお住まいだった方
- 浪板地域・・・震災以前に【浪板】にお住まいだった方

●町方、桜木町・花輪田、小枕・伸松、沢山・大ヶ口地域復興協議会で出された意見(抜粋)

項目	発言内容
防災	堤防は必要だと思うが、専門家の意見では、必ずまた造り直す時期が来ると聞いている。堤防の耐用年数が問題である。
	14.5mの要塞の中に囲まれた生活になると考えると、その分の予算を盛土造成に使った方が良いのではないかと思う。
	岩手県では14.5mと言っているのだから、高さ云々の議論は意味がないのではないか。自分たちの意見は県に通るのか。
	今までも津波が起きる度にゼロから再興してきた。財産は生きていれば何度でも作れるが、人命は残さないといけない。
	多重防災ということが重要になると思う。
	松島のように、沖の方に人工の島をつくり、津波を低減させることは出来ないだろうか。
	パターン例通りに嵩上げすれば、本当に元の住まいの所に家を建てられるのだろうか。
	流失した家のローンがまだ残っており、再建するには二重ローンを抱えることになる。
	財産は生きていればまた作れるというのは命も家も助かったから言えることである。
	高台移転で何とかならないだろうか。町方は直す必要がないと思う。このままでは近隣市町に移転することも考えてしまう。
土地利用	まず、津波が来たら逃げるというのが大切である。自分の目で確かめることがどうできるか。見て避難できる状況が重要である。
	私たちは海で生き、海を生業として生きているので、海が見えないのは困る。
	震災当日は津波が来るとは知らなかった。サイレンを一度も聞いていない。動画サイトを見ると鳴っているようであるが、大槌町は昔からサイレンが聞こえない地域があった。高齢者だと余計聞こえなかっただろうし、逃げられなかっただろう。
	桜木町は浸水深がそれほど高かったわけではないのに、10数名が亡くなっている。ソフト面での避難対策が必要だと思う。
住まい	災害危険区域となり、住居や店舗が建てられなくなる人のことを考えてもらいたい。また、当該区域の土地利用はどうなるのか。
	数年後には仮設から公共住宅へ移ることになると思うが、その位置を示して欲しい。
エネルギー	風力発電や太陽光発電の導入を検討してもらいたい。
	生ゴミから発生するメタンガスを使った発電を検討している人がいるようである。
地域別の要望等	(町方) JRの嵩上げを検討してもらいたい。
	(町方) 道路については、防災としては土盛をして、避難するスペースを確保するとか、放射状のレイアウトにするなど、防災面を重視して欲しい。
	(桜木町・花輪田) 花輪田は浸水が大きかった。防潮堤高14.5mにすれば被害を免れるということだが、嵩上げをしてもらいたい。
地域別の要望等	(小枕・伸松) 住めない土地は公的機関に買い上げてもらいたいということと、当面は仮設住宅に住むことになると思うが、代替地があれば移転したいと考えている。
	(小枕・伸松) 下水処理場裏の山を通る林道の奥を、小枕・伸松地域住民の移転候補地として造成できないか。

●安渡地域復興協議会で出された意見（抜粋）

項目	発言内容
防災 まちづくり	今回の震災でハード整備だけでは不十分であることが分かった。昭和津波の記念碑が町内各地で造られたが、その教訓が忘れられた経緯がある。教訓を生かした防災づくりが必要。
	再び大きな津波が押し寄せた時に対応するため、高台移転を第一候補とした計画づくりをしてほしい。
	安渡地域においては、JR線のトンネルの場所が高台移転の候補地にもなり得る。安渡地域だけでは議論できる問題ではないので、JRや近隣市町村と調整する必要がある。
	安渡地区は防災面が非常に脆弱だという認識がある。安渡小の体育館の立て替えや機能充実、安全な避難道の整備をお願いしたい。地域住民の声を反映された計画をつくりたい。
	停電時でも起動する津波センサーを海側に設置し、屯所を高台に移転することもできる。現代の技術と昔からの手法を取り入れた防災計画をつくってほしい。
	検討中のパターンを見ると、安渡2丁目には盛り土を行った宅地を確保することとなっているが、地域住民の方は実際の住む希望があるのか興味がある。
	町の方に理解して頂きたいのは、安渡地域の特性についてである。埋め立て地でもあり、常に液状化の心配もある。きちんとした調査と検証をして復興計画に生かすべきだ。
防災教育	防災教育としては、学校だけではなく、社会教育面で全町民を対象に行っていく必要がある。
コミュニティの再構築	安渡地域出身で別の地域の仮設住宅に住んでいる方もいる。その方達が戻ってくることができるよう計画をつくりたい。
防災意識	防災意識として、「防潮堤が高いと津波襲来時に海が見えない」という意見もあるが、「地震が起きたら逃げる」という考えが正しいと思う。
復興計画策定の進め方	以前のまちの形に戻すのか、新しく造り直すのかという議論が重要である。防潮堤の高さや位置についても、協議会内で議論し決めていく必要がある。

●赤浜地域復興協議会で出された意見（抜粋）

項目	発言内容
住民案	「赤浜の復興を考える会」の案は、役員幹事、生産関係団体、商工労働関係、PTA、婦人会、地元組織の代表で作上げたものである。
	防潮堤は高潮・台風対策が出来れば充分であり、津波対策としては居住地を確保するための土盛りによって擁壁をつくり対応していきたい。
	地盤高14.5m以上の高台に全ての居住地を確保したい。
土地利用	赤浜の魅力はたくさんあるので、独自のまちづくりをしていきたい。
	防潮堤の高さが従前の2~3倍の14.5mと示されているが、景観はどうなるのか。すり鉢の中で生活していくようなもので、圧迫感を感じると思う。
産業・雇用	100年~1000年で1度起きる津波対策のために防潮堤を14.5mで建設した場合、どれほどの耐用年数があるのか。
	漁港は県の管理になっているが、住民や漁業関係者の意見をさせるために町主導で進めてほしい。
医療・福祉	公営住宅に住めるようになるまで時間がかかるのならば移住することを考えている。高齢者が魅力を感じるように医療・福祉面の検討をして欲しい。
仮設住宅での生活	防犯のために街灯を付けてほしい。
	バスの便数が少ないのでスクールバスを出してほしい。
復興計画策定の進め方	建設予定の公共施設や漁港関係の施設について情報の公開をしてほしい。

●吉里吉里地域復興協議会で出された意見（抜粋）

項目	発言内容
防災 まちづくり	吉浜は地形は吉里吉里と異なるが、前の大津波の際に住居と職場を分け、今回の津波では住居が被災を免れた。今度の町づくりでは、私たちも子供や孫たちに同じ目に合わせないように考えていかなければならないと考える。
	山側にある吉祥寺の周辺では震災以前から県より砂防ダム建設の話があった。山側には土砂災害の危険性があることも念頭に置くべきである。
	避難時には鉄道などのフェンスを乗り越えさせて小学校へ避難させた。避難路を整備するには今が絶好のチャンスなので是非検討していただきたい。
	浸水区域内の元の住居に新たに家を建てても良いのか、その判断はいつ頃示されるのか、時間軸が見えないといつまで経っても不安が解消されない。光の見える話しをして欲しい。
環境整備	現在、中学校の通学路に街灯がない。また、国道45号から吉里吉里地区に入る入口が見えない。街灯の復旧を急いで欲しい。
環境・観光地の復活	生命を守る防潮堤も大事だが、日々の生活も大事である。吉里吉里は年間5~6万人が訪れる観光地であるため、防潮堤を検討する際には十分考慮してもらいたい。
	海岸線を県南から見てきたが、砂浜が残っているのは吉里吉里だけである。この砂浜とフィッシュリーナ、休耕田を組み合わせてグリーンツーリズムが提供できないか。一体的にサービスを提供・管理する会社法人などを検討して欲しい。研究機関を置いても良い。
コミュニティの再構築	5~10軒単位の移転では将来さびしくなるだけである。人が集まる場所を作らなければならないと思う。是非、コミュニケーションのとれる公営住宅を建設してもらいたい。
復興計画策定の進め方	この復興協議会を進めるに当たり、子供たちも参加させたいと考え、学校側に子供たちに将来の町の絵を描いて貰うことをお願いしている。この復興協議会からのオファーがあれば、正式に学校側をお願いするつもりである。

●浪板地域復興協議会で出された意見（抜粋）

項目	発言内容
地域の方向性	浪板は今後も観光を主眼とした地域でなければならない。
	砂浜は浪板の財産である。砂浜を戻す方法を知りたい。
津波防災の考え方	風景を活かすために海岸堤防を低く抑えて高台に移転する考えと、国道を嵩上げて背後を守る両方の考え方がある。
	前面の海岸堤防だけでなく、国道やJR山田線などを嵩上げし、第二、第三の防御ラインとすることも考えられる。
住居移転の考え方	浪板で高台移転を考えるに際しては、三陸縦貫の位置関係や、JR山田線により分断されているアクセスの改善を考える必要がある。
	土砂災害にも留意しなければならない。また、北側の高台を開発するに際しては、土石流などを三陸縦貫で防ぐようなことも考えられる。
	高台だけでなく、川沿いの奥の方に盛土をして移転する考えもある。
	北側の高台だけでなく、吉里吉里に近い南側の高台も利便性が良く活用できるのではないかと。
環境整備について	風光明媚な元の場所にまた住みたい。（ご意見・ご感想より）
復興計画策定の進め方	バス停から仮設住宅までの道が暗く、隣接する浪板川の柵も無くなっており、危険である。
	地域の人の繋がりを大切にしたい復興計画として欲しい。（ご意見・ご感想より）
	早期に手当を行うことで、若年人口の流出抑制に繋がると思う。